

平成28年度 第1回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 平成28年6月30日(木) 15時～17時

開催場所 文教ビル 5階 コンベンションホール

出席者 別紙参照

1 開会

2 議事

- (1) 「第1号議案 専決処分につき承認を求めること(平成27年度(2015年度)補正予算(第2号))」について(資料1)
 - ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

- (2) 「第2号議案 平成27年度事業報告」「第3号議案 平成27年度決算報告」について(資料2-1)(資料3)
 - ・ 第2号議案および第3号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

- (3) 「第4号議案 平成28年度インバウンド対策事業」について(資料4)
 - ・ 第4号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長より承認を求めた結果、異議無く承認された。
 - 轟委員(滋賀県立大学准教授)
 - ・ この事業は昨年度事業に挙がっていたか。この事業を行う背景について説明して欲しい。

 - 事務局
 - ・ 今回新規に挙げた事業である。前回総会の場で、今後公共交通利用促進をするにあたって、インバウンド対策としての訪日外国人対策が必要ではないかということでご意見を頂いた。その時点では外国人向けの対策は全く検討されていなかったため、取り急ぎ何らかの対策を実施しようとしたものである。

 - 轟委員(滋賀県立大学准教授)
 - ・ ご提案はどちらかという観光客視点だと思うが、外国人は観光だけではなくすでに居住・滞在されている方への視点も必要と思われるので、枠組みとしては観光客・インバウンドの視点と在日外国人の視点と両方を考慮頂きたい。

- (4) 「第5号議案 第5道路運送法第9条第4項及び同法施行規則第9条第2項に掲げる協議が調っていることの証明書・愛のりタクシー停留所の新設および移設」について(資料5)

- ・ 第 5 号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、会長より承認を求めた結果、異議無く承認された。

- 樋口委員（滋賀県バス協会）

- ・ 停留所移設については、位置図がないと判断のしようがないのではないかと。

- 事務局

- ・ 資料にある路線図でご判断頂きたい。位置については事業者や地域の方とも場所の確認を行い支障がないということだった。

- 樋口委員（滋賀県バス協会）

- ・ 公安なども位置については終わっているということか。

- 事務局

- ・ 地元とも調整している。

(5) 「報告事項 1 湖東圏域地域公共交通網形成計画」について（資料 6）

- 若林委員（多賀町住民）

- ・ 目標年次が形成計画では平成 32 年度となっているが、正しいか。

- 事務局

- ・ 資料 6-1 は誤植であり、29 年度から策定になるので 33 年度の 5 年間である。

- 若林委員（多賀町住民）

- ・ バス路線再編は大規模を想定しているのか。

- 事務局

- ・ 利用が定着している中で、すべてを大規模に再編することまでは考えていないが、少し変えれば利便性が高まるような路線については再編をしていきたい。今後検討していきたい。

- 下山委員（彦根市都市建設部長）

- ・ 策定期が平成 29 年 3 月だが、愛のり補助金の再委託に影響はないのか。

- 事務局

再編実施計画の策定は最速で平成 29 年 3 月で考えているが、これに間に合わなければ低い補助金となる。平成 29 年度に関しては平成 28 年 6 月に補助金の申請をしてい

るので影響はない。

● 樋口委員（滋賀県バス協会）

- ・ ICT IC カード導入に向けた検討とあるが、事業者負担も発生するのですぐには出来ないと思うが、導入するという前提で動いていただかないと時代にそぐわない。また、バスロケの整備なども取り入れていかないと利用促進は図れないのではないかと。バスロケについても事業者負担もあると思うが頭出しはこの計画で位置づけて、導入に向け動いて頂ければ。多言語対応として、滋賀県は台湾・中国が多いと思われ、英語だけの表記で良いのか、訪日外国人のニーズにマッチした利用促進が必要ではないか。

● 事務局

- ・ IC カードについては、今後利用促進を図るにあたって、重要であるという認識であり、交通事業者と協力しながら議論を詰めて計画に盛り込んでいきたい。バスロケもバスを利用するにあたって、自分のバスがどこを走っているかわからないなどの不安解消と利用促進にとって重要なツールであり、計画の中に盛り込んでいきたい。やりようによっては安くつくやりかたもあると聞いているので実現できるように検討したい。多言語対応についてはインバウンド対策事業に関連する意見と理解したが、現在の時点で出来ることは何かということで提案をさせて頂いた。今後需要があれば多言語も考えていきたい。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ p. 60 交通まちづくりの方向性は、都市計画サイドで都市計画 MP と都市交通 MP とのすり合わせも現在進行形と思うが、先ほどのインバウンドの関連もあるが、方向性の中に観光客への対応ということも視点としてあるのではないかと。通勤、観光とも P&R との関連もあるのではないかと。伝建地区の指定とあいまって観光客や旧市街地の移動支援の視点、P&R による高速道路から市街地への流入交通の整理を水色のところで整理できれば、都計サイドで議論している内容があればお聞きしたい。

● 事務局

- ・ P&R については、駐車場を新たに整備して市内流入を減らすことで快適な環境を実現できないかということで交通マスタープランなどで検討中である。具体的にはもう少しアウトラインが明確になれば、p60 の見直しなども含めて検討していきたい。

● 武永委員（滋賀大学教授）

- ・ 再編実施計画はまだたたき台ということであるが、お城回りについてはご城下巡回バス、滋賀大とのすみ分けとか、整理しなければならないと思うが、利用者数など、全体的にこういうプランを出そうとすると利用状況を把握する必要がある。数を出した上でどういうプランがあるかを考える必要があるが、事務局で説明していただかないと厳しいのではないかと。

● 事務局

- ・ ご城下巡回バスの利用状況は把握していないが、今後データを踏まえた検証は必要であると思うが、現在1時間1便で運行しているところ、また休日の観光シーズンのみであり、利用者が（ご城下巡回バスの情報を）予め調べて乗って頂くような運行形態と思っている。今回新たに提案した路線は、通常路線と同じく平日も含めて運行し、30分に1本で考えている。彦根市は国体の主会場になっていることや視覚障害者センターが松原にあることもあるのでそのあたりを経由しながら、2つの循環線を組み合わせることで市街地にお住まいの方が公共交通にアクセスしやすいように考えている。

● 武永委員（滋賀大学教授）

- ・ ルートの意味はよく分かるが、よそから資金の供給を考えるとまた違った形でなるのではないかと。また観光部局が関与していると思うが、当協議会としては把握していないといけないのではないかと。できるだけ統合して城アクセスにまず実態把握が先で、また利用されているのかしてないのかを把握したうえで再編でないかというのではないかと。実態の把握は早急にやってもらいたい。

● 喜多村委員（湖国バス）

- ・ パブコメなど今後のスケジュール目標は。

● 事務局

- ・ 12月総会でご議論頂いて、その後パブコメ、29年3月策定を目標としたい。

● 喜多村委員（湖国バス）

- ・ 今後も内容については見直せるということか。

● 事務局

- ・ 近江鉄道とはまだ協議が十分できていない。現在は活性化計画を引き写している状態で整理しているが今後調整していきたい。

(6) その他 夜間誘客事業の紹介、近江鉄道 ビア電の紹介、湖国バス 京阪バスと共同事業の紹介

3 閉会

以上